海外・帰国
あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Ｅメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

佐々　信行
さっさ　のぶゆき
啓明学園初等学校　校長

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、・ワシントン補習授業校を経て、現職。

啓明学園　初等学校・中学校・高等学校
東京都昭島市拝島町 5-11-15
代表：　042-541-1003
www.keimei.ac.jp

日本の遊び

「イマージョン・プログラム」の教室で（2）
高学年の教室で

学校生活の言語を、子どもたちの母国語（第一言語）でない言葉（外国語）にしてしまおうというのがイマージョン・プログラムですが、プログラムの成功のためには、次の条件が満たされていなければならないと言われています。

1）子どもたちは、外国語の力をつけている。
2）子どもたちは、母国語の力も問題なく身につけている。
3）子どもたちは、外国語で学習する教科の内容も、きちんと理解している。

イマージョン・プログラムが広まったのは、いろいろな研究の結果、このプログラムがこの三つのどれでも、満足できる結果を残しているという報告がなされたからです。

家族とともに外国に住んで現地校に通う海外子女の場合、子どもたちは否応なしに母国語でない言葉で生活することになるわけですから、このイマージョンの状態によく似ています。ですから、イマージョン・プログラムについて見ていくと、海外で子どもを育てるためのヒントを見つけることができます。今回は、小学校高学年の子供たちを念頭において、アメリカで日本語イマージョン・プログラムに通うアメリカ人の生徒の場合と、日本から来てアメリカに住む海外子女の場合とを比べながら考えてみましょう。

まず、1）の点については、当然大きな期待が寄せられます。イマージョンの場合も、毎日の生活の中で必要な言語がまず身につきます。小さい子の場合、外国語を学んでいるということをあまり意識していない場合さえあります。しかし、アメリカの学校では日本語を自由に操るのは先生だけというのが普通ですから、高学年の生活や学習に必要なレベルになると、新しい言葉や表現を自然に覚えると言うわけにはいかず、やはり「教えられて」覚えるということが中心になります。

海外子女の場合は、学校で耳に入る言葉はほとんどが英語だけという状態にあります。しかも、英語を使わなければ生活できないという状態に追い込まれます。まさに、英語の「イマージョン」（どっぷりつけること）の状態です。短期間に、学校生活に最低限必要な英語をなんとか身につけてしまう子が多いのは当然です。ただし、その成果は、本人と家族の大きな努力があってこそ得られるもので、けっして苦労もなく自然にやってくるものでないことは、お母さん、お父さんたちが十分ご承知のとおりです。

2）の点については、イマージョン・プログラムでは、あまり心配がありません。特に広く行われている「パーシャル・イマージョン」では、英語で生活する部分もありますし、なんといってもイマージョンの教室